

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—133950

⑮ Int. Cl.³
B 32 B 5/18
3/30

識別記号

庁内整理番号
7603—4F
7166—4F

⑯ 公開 昭和55年(1980)10月18日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑰ 型 材

東京都杉並区永福3丁目37番12号

⑱ 特 願 昭54—41121

⑲ 出 願 人 満尾浩治

⑳ 出 願 昭54(1979)4月6日

東京都杉並区永福3丁目37番12号

㉑ 発 明 者 満尾浩治

㉒ 出 願 人 高津和夫

東京都杉並区永福3丁目37番12号

横浜市港南区笹下町2559番地

㉓ 発 明 者 満尾ミツ子

No.1

明 細 書

1. 発明の名称

型材

2. 特許請求の範囲

発泡スチロール板の上に凹凸模様を施し、その表面に撥水性層を設けてなることを特徴とする型材。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、発泡スチロール板の上に凹凸模様を施し、その表面に撥水性層を設けてなることを特徴とする型材に関する。

以下本発明を添付図面の実施例を参照して説明すれば、第1図は表面に熱処理、彫刻その他の方法で凹凸模様を施した発泡スチロール板1の、凹凸模様を施した面全面に亘り液状撥水剤を吹付け塗設して含浸せしめ、乾燥させて撥水層2を構成した型材1例を示す。

第2図は、一側の合板型枠3の内側に上記型材を接着剤等を利用して貼着し、他側の合板型枠3'との間にコンクリート4を打設した所を示す。

No.2

し、コンクリート4の硬化後型枠3・3'を除去すると、型材は型枠3と同時に除去されてコンクリート表面に美しい凹凸模様が転写される。

本発明においては撥水性層を構成するに、発泡スチロール板1の凹凸面に石鹼水溶液、信越化学工業株式会社製ホロロンC等のシリコン樹脂系撥水剤水溶液、ステアリニ酸またはステアリニ酸塩等の金属石鹼水溶液、またはこれらの混合物、或いは焼融ハーフイン等の液状撥水剤を直接吹付け塗設して乾燥或いは硬化させてもよい。上記液状撥水剤がまたはステアリニ酸等の粉状撥水剤を、合成ゴム系エマルジョン、合成樹脂系エマルジョン、またはこれらの混合物を吹付け塗設した上に吹付け積層し硬化させてもよい。また合成ゴム系エマルジョン、合成樹脂系エマルジョン、またはこれらの混合物に撥水剤を混合したものを、直接吹付け塗設するか撥水剤を混合しない上記エマルジョンを吹付け塗設した上から吹付け塗設して硬化させ、薄い可撓性撥水層を構成してもよい。尚下地層を形成

163

あるエマルジョンにはナトリウムセルローズ水溶液を混合して接着効率を大とすることができ、

また信越化学工業株式会社製RTレゴムを凹凸面に直接かまたは接着剤層を介して薄く塗設して硬化させてもよく、RTレゴムが溶剤系の時は、凹凸面に溶剤に溶けにくい合成ゴム系が合成樹脂系等の被膜層を構成してあり、その上にRTレゴムを吹付け塗設して硬化させてもよい。尚合成樹脂系エマルジョンには両端ビニール樹脂系エマルジョンやアリリル樹脂系エマルジョンが使用され、エマルジョンにはその硬化を早める目的で、可塑性を失わない範囲でセメントや石膏等の水硬性無機質硬化原料を混合することができ、

従来、発泡スチロール板に凹凸模様を施し、該板を型材としてコンクリートや石膏を成形し、硬化後離型してなる凹凸模様転写法が知られてゐるが、発泡スチロールがコンクリート等に付着して残存し、このためコンクリート等の表面に付着した発泡スチロールを溶剤で溶かしたり、

164

特開昭55-133950(2)

バーナーで焼融除去しなければならぬ等の欠点があった。本発明は上記に鑑み成されたものであり、離型良好で発泡スチロールがコンクリート等に付着して残存するようにならない、型材を何回でも繰返して使用することができ、効率を有し、この種の型材ミリコンゴムに比し価格も低廉であり、コンクリート等の型材として広く用途に供することができ、

尚本発明における型材は発泡スチロール板を基材とするもの、凹凸面を有するものに限定されるものではなく、基材を合板、金属板、合成樹脂板としたもの等にも適用することができ、

4. 図面の簡潔な説明

添付図面は本発明の実施例を示すものであつて、第1図は型材1側の断面図、第2図は型材を利用してコンクリートを打設した所を示す縦断面図である。

特許出願人

満 尾 浩 治

高 津 和 夫



第1図



第2図

